

「安心・安全」に暮らせるまちへ!

西東京市議会公明党 田代 伸之(たしろ のぶゆき)



問 災害時のトイレ対策として、良好なトイレ環境の確保が重要。災害時トイレ用資機材に「ラップ式災害用簡易トイレ」の導入を求める。

答 配備の考え方について他自治体の事例など調査研究する。

問 障がいがある方や御家族の支援として、ライフステージを通し情報共有できる「サポートファイル」の導入を求める。

答 庁内関係部署と連携を取り、具体的な検討につなげる。

問 認知症の方への適切な接し方を学ぶ「*ユマニチュード」について、支える御家族や事業者などに対し、その普及啓発に積極的に取り組むべきと考える。

答 本取組は、地域包括ケアシステムの深化・推進に向け注視すべき取組。今後、関係事業者などと意見交換を

行い、進め方などについて検討、調整していく。

問 市民サービスに直結する窓口業務の改善は重要な取組。デジタル技術を活用した「行かない窓口」の構築を目指す。見解は。

答 *自治体DXを進める上で将来的な目標にすべき方向性。窓口DXにおける可能性を検証し、より効果的なデジタル活用に取り組む。



終末期の支援～「訪問診療」の活用を! DXの推進～相談支援記録の効率化を!!

西東京市議会公明党 八矢 好美(はちや よしみ)



終末期の支援

問 一昔前と状況が変わっている。医療や介護が必要な方、ひとり暮らしをする方が増え、病院では長期入院が厳しくなっている。通院の手助けや、経済的な理由から適切なケアを受けずに、入院のギリギリまで自宅で生活をしている方がおられる。

答 訪問診療の専門医が増加。在宅療養を支える環境整備を図っている。

問 訪問診療医への聞きとりは。

答 訪問診療医より「地域包括支援センター等からつないでもらえれば見に行くことができる、気軽に声をかけてほしい」と意見をいただいている。

意見 終末期支援の選択の1つとして、訪問診療医を気軽に使えるように、尊厳のある生き方として選択が広がるよう取り組むこと。

DXの推進(相談支援サービス導入)

問 これまで電子カルテのように、妊娠から子どもの成長をつなぐ個人記録のシステム導入を提案してきたが、大量の相談記録入力に課題である。

先進自治体で導入中の「AIを活用した相談支援サービス」を提案する。

答 業務の効率化が期待される。全庁的なAIを含めた新たな技術の活用を進める。



中町学童クラブの過密化、老朽化対策として碧山小学校敷地内に移設の検討を!

西東京市議会公明党 藤田 美智子(ふじた みちこ)



問 定員40人の中町学童クラブの過密化率は190%。入退室管理システムの最新分析状況と対策を問う。

答 4月から8月の利用最大数・超過率は57人・143%。少ないときは30人・75%。今後はピーク時のタイムシェア導入を検討する。中長期では、学校内への整備に向け、教育委員会、学校と引き続き調整を行い過密化解消に取り組む。

問 今後の学童クラブの利用数の推移をどう考えるか。

答 調査では令和7年度以降もニーズは伸びていくものと見込んでいる。

意見 中町学童は老朽化の課題もある。碧山小学校の建て替えまでは30年あり、とても待てない。一方、体育館は建設から56年が経過している。学校施設個別施設計画を再検討し、体育館建設の際に碧山小学校施設内に

移設するよう提案する。

問 給食のない夏休みの配食弁当導入を求めてきたが本格実施の状況は。

答 7月22日から8月30日まで延べ6,789食、1日平均272食の利用があった。保護者から、「助かった」、「カード支払いが便利」などのお声があった。

その他の質問

- ◇保谷駅ホームドア整備事業
- ◇各種予防接種事業について



中町学童クラブ

健康・生きがいづくりや暮らしの安全・安心を応援するまちへ

西東京市議会公明党 大林 光昭(おおばやし みつあき)



問 今夏も厳しい暑さが続いた。市民が自由に涼めるクールシェアスポットやクーリングシェルターを公共・民間施設とも増やすべき。

答 指定施設を拡大し、熱中症による健康被害から市民を守るよう努める。

問 スポーツ施設の整備について、文理台公園のリニューアルやMUF G PARKの活用状況は。

答 課題が多く、引き続き検討していく。

意見 公有地を活用し、整備すべき。

問 シニア世代の活躍の場づくりへ、生涯現役応援サイト「ミーツ」の運用状況は。

答 生活スタイルに合った仕事への関心が高い。庁内連携による求人や収入プランに関するセミナー等で、活躍の場づくりにつなげる。

意見 週2、3日や短時間のワーク

シェアやスポットワーク等の働き方も提案すべき。

問 7月末に発生した集中豪雨では、市内で浸水被害が出た。被害状況を把握するとともに、住居への浸水被害を軽減する止水板等設置への補助など支援策を検討すべき。

答 被害状況の把握方法や補助について調査研究する。



東小学校の教室不足の問題 保護者児童に寄り添った丁寧な対応を求める

維新・国民民主 鈴木 ゆうま(すずき ゆうま)



問 令和6年度予算特別委員会の私の質疑において、特別支援学級の児童数増加を受け、東小学校の教室数の不足が生じ、緊急対応的に住吉小学校に特別支援学級を新規開設することが判明した。特別支援教育、今後の特別支援学級の配置などを含む運営についてどのように考えているのか。

答 特別支援教育は、子どもたちの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものと認識している。子どもが安心して学べる教育の実現に向けて、最善の教育環境を提供していくため、4月に予定していた保護者説明会は留保し、東小学校との検討を重ね、7月に東小学校内に

おける改修対応案を取りまとめた。

意見 子どもたちのよりよい学習環境を整えるためにも、プランの大幅な変更は、十分な検討プロセスと保護者の理解が必要不可欠である。東小学校の保護者の方については、可能な限り速やかな周知、丁寧な説明会の開催を求める。



東小学校

田無三中新校舎は、西原総合教育施設の敷地に建て替える方がメリットが大きい

西東京市議会公明党 佐藤 公男(さとう きみお)



問 田無三中の建て替えに当たり、西原総合教育施設などととも、全体を地区計画に設定すべき。

答 地域住民と意見交換を行いながらまちづくりを進める。

意見 田無三中のグラウンドに現地建て替えにすると、南側校舎で狭い鎌倉街道に面することになり、圧迫感が出る。北側グラウンドは水はけが悪く、積雪が溶けにくいなどが懸念される。西原総合教育施設への建て替えの方がメリットが大きい。

シティセールス・観光の専門部署を

問 シティプロモーションに積極的に取り組むため、各部署発行のマップを取りまとめ、デジタル化し、市ホームページに専門ページを新設し、取りまとめる専門部署が必要。

答 各部署発行のマップを集約したページは必要。専門部署は来年度予

定の組織改正の中で検討する。

おくやみ窓口に行政書士などを配置

問 一昨年開設されたおくやみ窓口に、相続などの相談にも答えられる士業の配置を検討し必要な書類を作成する場を設けられないか。

答 意見交換等を考えている。

意見 LINEの通報制度に防災を追加し、災害時に情報を集約することで、対策の優先順位を決定できる。



田無第三中学校

*ユマニチュード 知覚・聴覚・触覚などを用いたコミュニケーションに基づく、認知症へのケア技法。
*自治体DX(デジタルトランスフォーメーション) 自治体がデジタル技術を活用し、行政サービスの改善や効率化をはかること。